

ゆり地域支援だより

令和3年3月19日発行 第5号 秋田県立ゆり支援学校 地域支援部



共生社会とダイバーシティ

秋田県立ゆり支援学校長 高橋 譲

ダイバーシティという言葉は初めて見聞きしたのは、おそらく 20 数年前、自家用車に TV と一緒に屋根に取り付けた「ダイバーシティアンテナ」でした。当時は、「街中 (city) のビルの合間に潜り込んで (dive) いても電波を捉える」という意味だと勝手に解釈していました。このところ「ダイバーシティ社会の重要性」などと聞くようになり、その解釈では話の筋が通らないことに気づき、正しくは「多様性」という意味だと分かったのはつい最近です。そんな、ダイバーシティという言葉から、最近考えていることがあります。

「多様性・人はそれぞれに違う」ということは、なんとなく分かっています。だから、「私と違うあなた」を受け入れることはそんなに難しいことではありません。ところが「私たちと違うあなた」になると、途端に様子が変わります。「私たちと違う性」「私たちと違う肌の色」「私たちと違う……」いわゆる差別につながる感覚です。また、今の状況では「コロナに感染していない私たちと、感染したあなた」という図式にもつながります。しかし、実際には、「私たち」の側にいるか「あなた」の側にいるかは紙一重です。今は「私たち」でも、すぐに「私」と「あなたたち」に変わるかもしれません。

共生社会の実現には、それぞれ違う多様な「わたし」や「あなた」が互いに「存在を肯定し合う」ことがスタートだと考えます。「障害理解教育」はその一部でしかありません。まずは、「私と違うあなた」がいることを知り、「私」と同じように「あなた」も大切であることを感じるだけでもいいと思います。そして、障害の有無、性別、見た目の違い……いろんな違いのある「私」と「あなた」すべてをひっくるめて「ダイバーシティな私たち」と考えることで、共生社会が作られていくのではないかと思います。

というように、過去に勘違いして覚えたり理解したりしていた言葉も、実はとても今の自分にとって大切に、自分自身の考えの中にあるものにつながっていることを感じてしまったところでした。

専門監のつぶやき



今回は、パニックを起こしてしまったり、心理的に不安定になって自傷行為や他傷行為をしてしまったりする子への対応の仕方を少しだけお伝えします。

これまで学校や園を訪問をしてきて、パニックを起こしてしまった後、ひどく落ち込んでいる子どもの姿をたくさん見てきました。「また、やってしまった」「どうせ僕はダメなやつだ」と教室の片隅や階段の下で泣いている姿でした。「誰かを傷つけたい」とか「困らせてやる」という気持ちでパニックを起こしたり暴れたりする子などほとんどいません。どう行動すればよいか分からない不安、予定変更やイメージ通りにいかない苛立ちが、押さえきれない衝動性と相まってパニック状態になってしまうのだろ

★「事前・パニック時・事後」の3つに分けて考えます

事前にできるアプローチ(予防的アプローチ)



<記録を取り、要因を探る>

活動していた内容、パニックを起こした時間、場所、関わっていた人について簡潔に記録をとり、頻度や関係性を探っていきましょう。

- ・パニックの頻度が高い時間帯が分かったら、不安定になる前に大人が介入し落ち着いたやりとりをします。
- ・パニックの頻度が高い場所が分かったら、落ち着ける環境に整備したり、場所を変えたりします。
- ・パニックの頻度が高い活動内容や関わっている人が分かたら、内容を変えたり関わり方を工夫したりします。

パニック時の対応

パニック

<指示や注意は届かないものとして考える>

- ・クールダウンを試みます。その際クールダウンの部屋の活用の仕方も教えていきましょう。

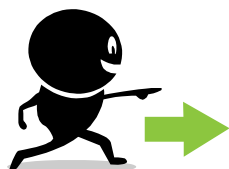
※クールダウンの部屋の活用

パニック状態を落ち着かせるための部屋として活用するだけではなく、パニックに陥る前の段階の、いらいらしている自分の気持ちを切り替えるために活用する方法を伝えていく。将来的な自己コントロールの学習の場としてとらえることが大切。

- ・危険行為の抑止と周囲の危機回避を最優先に考え、周りの子ども達や貴重品等に被害が及ばないようにすることも大事です。

事後に必要なアプローチ(自己コントロールに向けて)

<落ち着くまで待って話を聞くことが大前提>



どのように行動すればよいのかが分からずに、パニックになっている子が多いことから、じっくり話を聞いた後、適切な言動をアイメッセージで簡潔に伝えます。状況に合った適切な言動を学ぶ貴重な機会であることを念頭において対応にあたりましょう。いつか衝動性が和らいで、自己コントロールの力が培われてきた時に必ず生きてくる大事な支援です。

～どんなことでもご相談ください！～
秋田県立ゆり支援学校 地域支援部

TEL : 0184-27-2630

E-mail : yuri-s@akita-pref.ed.jp

HP : <http://www.yuri-s.akita-pref.ed.jp>

